

## 「一つの出会いが人生を変える～中村文昭氏講演会編～」

学生に一度は会わせておきたい講演家、中村文昭氏を紹介します。

『彼はかなり変わった経歴の持ち主…。三重のど田舎に生まれ、猿とけんかの野生児生活を送ったのち、できすぎ君の兄を追ひ、18歳で家出同然に東京へ。父が「人のチャリ盗むな！」とのみ書いて、細かく分解して送りつけてきた自分のボロボロの自転車を組み立て、原宿めがけて飛ばしているうち、ブレーキがこ



生徒代表お礼の言葉

われていたため、全速力で突っ込んだところがどうも防衛省だったらしく、けたたましいサイレンの中、「止まれ！」と言われても足ブレーキでなかなか止まれず、あっという間に拳銃・ライフルをつきつけた自衛官に取り押さえられ、「人にだけは迷惑かけるな」が別れの最後の言葉であった母親に電話され、指紋押印・始末書作文のあと、兄の家に帰る途中道がわからなくなり、自転車押してとぼとぼ歩いているうち警察官とすれ違い、昔から警察を見るとキョドってしまうくせが出、「はい、止ろうか～」ときっちり止められ、「その自転車どこでとってきたのかな？」と疑われ、いくら説明しても「自転車どろぼうは、みいんなそんなこと言うんだよ～」と連れて行かれて、親はさっきの20分



11月11日(火)中村文昭氏講演会  
「一つの出会いが人生を変える」

○中村文昭さんの講演を聞いて、私は今まで頼まれるとやりたくない理由を言って断ったり、文句を言いながら嫌々引き受けたりしていました。しかしこれからは「頼まれごととは試されごと」という言葉を意識して、どんな頼まれごとをされても笑顔で「はい！」と返事をして誰よりも早く行動して相手を驚かせ、たくさんの人を喜ばせようと思います。4月から社会人になるので、「人を喜ばせることが仕事」ということを頭に置いて、お客様と積極的にコミュニケーションを取って中村さんのように「この人がいるからまた来たい」と思っていたいただけるような人になりたいです。

(3年：Mさん)

○中村文昭さんの講演を聞いて、人から頼まれたら引き受けるようにしようと思いました。私は飲食店でアルバイトをしているので、様々な方から「頼まれごと」をされます。今までは「お客様のため」と思っていたのですが、「お客様」だけではなく今後の自分自身やその場にいる全員のために、喜んで0.2秒で返事をして引き受けようと思います。貴重な時間をありがとうございました。

(3年：Nさん)

○中学時代は学校に通うことが難しい時期もあったけど、中村さんの講演を聞き、世の中には様々な職業があり、自分には得意なことがあまりないけれど、絶対に何か私にしかない才能があるのでは…？と考えるようになりました。小学校時代から今まで沢山の天使にここが頼みごとをされたいとあまり手伝う気にならなかったけど、これからは笑顔で優しく接することができるように心がけていきます。

(3年：Kさん)

○中村さんは将来何をしたいのか分からないと思っていた時、一つの出会いが中村さんの運命を変えたとおっしゃっていました。私は将来の夢がなく、高校を卒業したら働くつもりでした。しかし私は誰かに必要とされたい、誰かの支えになりたいと思い、白衣の天使にここが看護学校に行くことを決意しました。看護師とは全く縁のないものだと思っていましたが、こんなに短い期間で私の人生が変わるんだとびっくりしました。今回の講演会は共感することが多くとても楽しかったです。

(3年：Nさん)

○好きなことを続ければ、それも強みになるという講演内容にすごく救われた気がします。いろんな方のお話をされ、自分もお話の中で出てきたような方みたいに出るから分からないけど、すごく考えさせられるお話だったし、もっともっと好きを追求していきたいなと思いました。すごく貴重で考えさせられるお話だったし、深く考え込む前に行動することたまには大事なんだなと思わされるような内容でした。周りから無理だと言われても何かなんでも自分だけは自分のことを信じたいと思います。

(3年：Nさん)



後に、今度は警察からの電話を受けとることになったというのが、文昭さん東京2日目の出来事で、結局、さっきも防衛省で殺されそうになったという話から、そのおまわりさんと友達になり、バトカーで家まで送ってもらい、いつでも遊びに来いよと言ってくれたからといって毎日通い、鬱陶しくなったおまわりさんたちがバイト先をさがしてくれ、昼は日雇い、夕方からミスド、夜は焼鳥屋で働くうち、だんだん背中が猫背になりながら、「俺はいったい何やってんやろ」とモヤモヤしていた頃、その焼鳥屋で偶然となり座った田端さんという人との出会いから、人生が変わった』というのがまくらで、その人生の師匠田端さんから教わったことなどが、講演の内容です。

【次頁に続く】

講演会終了後のサイン会の様子



そして『中村文昭氏は、18歳の時、焼鳥屋で人生の師匠田端さんに会った。モヤモヤしていた中村氏が、この師匠との出会いで心のスイッチが入り、話の途中から、涙がポロポロ出てきたという。彼は、その場で田端さんに「弟子にしてくれ！師匠と一緒にいたい。」と泣きながら頼んだ。彼は、師匠に惚れこんで働き始めた。師匠は40歳を越えてるなど思っていたら、実はまだ26歳だった。そして何より師匠には、人が人を惹きつける魅力、つまり「人間力」があったのだ。弟子入りを果たした彼は、「俺は医者や弁護士にもなれないし、どうせ俺はこんなやし…」と思い込んでいたが、人間を測る物差しは職業ではなく、職業では測れないこの「人間力」であることを知るのである。』



本校は著名人の講演会だけではなく様々な芸術鑑賞会も開催しています。

【上】5月28日(水)本校スーパーウェンズデー企画としてジ・アウトレット北九州特設会場で開催された「木下大サーカス」に行ってきました。

【下】11月6日(木)芸術鑑賞会「エル・コンドル」



○中村文昭さんから「頼まれごととは試されごと」であり、「できないことは頼まれない」と聞き、その通りだと感じました。そして頼まれごとをめんどくさい、おもしろくないと考えずに前向きに何ごとにも挑戦することが大切だと知ることができました。これからは自分も頼まれごとを全力で行い、多くの人を喜ばせられるようにしたいと思います。(1年：Nさん)  
○中村さんの話を聞いて、学校に行くということは人生の決まりじゃなくて人生を楽しむための選択の一つなんだと考えることができました。今まで学校を卒業できなかったら生きていくための選択肢がとても狭くなると考えていたけどそうではないんだ。学校に通うことを重く考えていたけど気持ちが軽くなりました。中村さんのように人の手伝いをしながら自分の人生も楽しくできるような生き方をしたいと思います。(1年：Nさん)  
○自分の夢で成功した人の話を聞いた方が将来像ができやすくなる、という話がとてもためになりました。いろんな人の成功の話がとてもおもしろかったです。自分もこれからの出会いを大事にしていこうと思います。

(1年：Kさん)

○時間的に長い講演会でしたが全く飽きのこないお話でした。一番心に残った内容は、失敗して謝罪するようなことがあっても、未来でそれを話のネタにすることができるということです。だから今から失敗をおそれず、何ごとにも挑戦してみようと思いました。(1年：Kさん)

○中村さんの「頼まれごととは試されごと」という言葉が印象に残りました。話の通り、私も頼まれごとをめんどくさいと思うタイプでいたため、これからは考え方を改めて誰かから何か頼まれたときは相手の想像のななめをいって、びっくりさせるぐらいのことをします。気合いを入れて受け入れて最後までやってやります。中村さんのアドリブ力にも驚きました。

(1年：Yさん)

○お話を聞いていくうちに、中村さんのお話の世界に入ったみたいでとても楽しかったです。「水を買ってきてくれ」のお話では、誰かのために全力でなにかをがんばるってかっこいいと思いました。私は、仕事をお金のためにやるという考えが強かったのですが、中村さんの話のおかげで考え方が変わりました。「またこのお店にきたい」「またこの人に会いたい」と思ってもらえるような、人を喜ばせられる人になりたいです。私には好きなものがあります。その好きなものを話す勇気がなかったけど、話したくなりました。中村文昭さん、素敵な講演会をありがとうございました。

(2年：Hさん)

○中村さんの話を聞いて、自分も誰かから頼まれごとをされたら、ネガティブに考えるのではなくポジティブに考えて全力で頼まれごとをしようと思いました。そして自分にも刺さる言葉がたくさんあり、色々共感しました。これから自分の好きなことから将来何をしたいかを考えようと思います。

(2年：Kさん)

○中村さんのお話をきいて、このような考え方もあるんだなとびっくりした部分もたくさんありました。私も先生方からこれをしてほしいなど頼まれごとをされた時、「私なんか」とか「めんどくさいな」など、自分に自信が持てないタイプなので、自分ができるわけがないと思いつつ引き受けてきました。ですが今日のお話を聞いて考えが変わって、プラス思考で考えればいんだと思うことができました。貴重で楽しいお話をありがとうございました。でも私も時々頼んでくれて、「相手をびっくりさせよう」「それを越えよう」と思う瞬間があります！とても共感できました。

(2年：Nさん)

○自分の人生のためになる話を聞けてとても感動しました。「人生で一番の仕事は人を喜ばせること」だと聞き、「なるほど」と思い大切にしていこうと思いました。そして人には何か一つの才能があると聞き、勇気をもらえました。これらのことを自分の人生で生かしていきたいと思います。

(2年：Tさん)

○今まで生きてきて、将来の夢が決まることがなくて悩みに悩んできたけど、自分が一番お金と時間をかけてきたことを思い出してみても、それが自分が好きなことだからその道で生きていきたいなと思いました。他の人から自分の夢を否定されても、自分の人生だから自分で決めて、「この道で食べていけるのか」などより「したい」を大事にしていこうと思います。

(2年：Iさん)

ラテンアメリカのパークッションでリズム演奏体験



インディオのギターとチャランゴの演奏体験



アンデスの笛ケーナとシークの演奏体験

